

第59回

親子でいい歯 コンクール



最優秀

うえだ ゆうと かほり
植田 優人ちゃん・佳朋里さん



▲コンクールに参加された皆さんと堀宏之先生

6月1日(火)、保健センターで「第59回 親子でいい歯コンクール」第1次審査が開かれました。

このコンクールは、親子で歯の大切さを知ってもらおうと毎年行われているものです。この日は、平成21年度中に3歳6か月児健康診査を受けた195名の幼児の中から、虫歯のないきれいな歯をもつ13組の親子が参加されました。

歯科医師による審査の結果、日野町代表に、植田優人ちゃん・佳朋里さん親子(村井1区)が選ばれました。

おめでとうございます。これからもずっといい歯でいてくださいな。

植田さん親子は、日野町代表として、6月24日(木)に行われた東近江地域第2次審査のコンクールに出場されました。



歯磨き大好き!

▲「朝と夜に歯磨きをしたとき、最後の仕上げをするようにしています」と佳朋里さん

綿向雑感

日野町長 藤澤 直広

NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」を毎日楽しんで見えています。漫画家水木しげる氏の妻が主人公、昭和30年代の東京の郊外が舞台で、近所同士の助け合いも描かれています。しかし、主人公の暮らしぶりは貧しく、知人が「あなたの亭主は一生懸命働いているのかい。バクチも酒もやらないのに貧乏なのは、あんたらのせいではないよ。世の中のせいだよ。政治家は何をしているのかねえ」というセリフがありました。

あの時代から「高度経済成長」となり、国民の意識は「億総中流」といわれました。まじめに働けば生活ができればなりません。

しかし今、派遣労働の拡大などによって働いても働いても生活がたちゆかないワーキングプア(働く貧困層)が広がっています。こうしたワーキングプアを踏み台にした大企業中心の「景気回復」で国民の暮らしが良くなることはない。「実証」済みです。菅内閣の支持率が「V

字回復」しましたが、財源確保といえは消費税増税、沖縄基地問題といえはアメリカ優先では、これまでの古い政治となら変わりません。「政治家は何をしているのかねえ」とぼやくだけでなく国民が政治に参加し意思を示すことが大切です。

ところで、日野町では町民の皆さんの参加のもとで第5次総合計画の策定をすすめています。6月11日には総合計画策定懇話会から「中間提言」をいただきました。キャッチフレーズは「びびきあい『日野のだから』を未来につなぐ 自治の力で輝くまち」。町民の皆さんの意気込みがしっかりと伝わってきます。

「意気込み」といえば、今回、近江日野野田舎体験で1,200人もの中学生を100軒を超える家庭で受け入れ、日野町の豊かな自然と人情味を中学生の心に伝えていただきました。引率の先生が「いい町ですね」と言ってくれました。さらに「いい町」をつくるために力を合わせましょう。そして「いい県をいい国」をつくりましょう。7月11日は参議院選挙と知事選挙。主権者は私たちです。